

# Asunaro Yume Kentiku

## ■応募作品校一覧

### 【第1部】

- 大阪市立都島工業高等学校
- 大阪市立工芸高等学校
- 大阪府立今宮工科高等学校
- 大阪府立西野田工科高等学校
- 大阪府立布施工科高等学校

### 【第2部】

- 中央工学校OSAKA
- 大阪建設専門学校
- 修成建設専門学校
- 大阪府立夕陽丘高等職業技術専門学校
- 大阪工業技術専門学校
- 大阪デジタルテクノ専門学校
- 日本理工情報専門学校
- 大阪府立工業高等専門学校

ARCHITECTURE COMPETITION

主催

- 大阪府
- (社)大阪府建築士会
- 大阪府住宅供給公社

後援

- 大阪府教育委員会
- (社)大阪府専修学校各種学校連合会

協賛

- (社)日本建築協会 (社)大阪府建築士事務所協会
- (社)日本建築家協会近畿支部 (財)大阪建築防災センター
- (財)日本建築総合試験所 (財)日本建築センター大阪事務所
- (社)公共建築協会 (社)大阪建築設備設計事務所協会
- (社)日本建築積算協会関西支部
- (財)建築技術教育普及センター近畿支部

あすなろ夢建築  
あすなろ夢建築

## 第19回

# 大阪府公共建築設計コンクール

Architecture Competition' 2009

『豊かなときを刻む』  
大阪府営富田林楠住宅集会所

# コンクール概要

このコンクールは、青少年に「夢」と「チャンス」を与え、将来の技術者の育成に寄与するとともに、永く府民に愛され、親しまれる公共建築づくりを進めていくことを目的とし、小規模な公共建築物を題材に府内の高校生や専修学校生等からアイデアを募集し、最優秀作品賞に選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

## 【テーマ】

「豊かなときを刻む」 ー大阪府営富田林楠住宅集会所ー

## 【主な設計条件】

所在地 富田林市楠町  
計画地面積 約 990 m<sup>2</sup> (集会所敷地)  
延べ面積 240 m<sup>2</sup>～260 m<sup>2</sup>  
構造・規模 鉄筋コンクリート造 平屋建て(地下なし)

## 【作品受付期間】

平成 22 年 1 月 12 日 (火) ～ 1 月 15 日 (金)

## 【応募状況】

応募校数 : 13 校  
応募作品数 : 195 点 (うち 第 1 部 77 点、第 2 部 118 点)  
応募者数 : 214 人 (うち 第 1 部 77 人、第 2 部 137 人)

## 【応募資格】

大阪府内に所在する工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校、高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人または3名以下のグループでの応募とする。

## 【募集区分】

第 1 部…大阪府内の工業高等学校(工科高等学校)等に在籍する生徒。  
第 2 部…大阪府内の短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生。

## 【入賞作品と賞】

最優秀作品賞 : 1 点 優秀作品賞 : 3 点 佳作 : 3 点 奨励賞 : 3 点  
入賞作品は、上記のとおり合計 10 点を選出し、それぞれの入賞者に賞状を授与した。ただし、優秀作品賞、佳作、奨励賞については、全体で第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の入賞作品を選出するものとした。

## 【表彰式】

日 時 : 平成 22 年 3 月 26 日 (金) 午前 11 時～正午  
場 所 : 大阪府公館 大サロン

## 【プレゼンテーション】

日 時 : 平成 22 年 3 月 26 日 (金) 午後 1 時半～午後 4 時  
場 所 : 大阪府公館 大サロン  
内 容 : 受賞者による作品プレゼンテーション、  
審査委員とのフリーディスカッション他

## 【入賞作品の展示】

期間・場所 : 平成 22 年 4 月 5 日 (月) ～ 4 月 16 日 (金)  
大阪府庁本館玄関ロビー 平日 : 午前 9 時から午後 5 時まで



## 審査委員

(審査委員長)

狩野 忠正

(大阪芸術大学芸術研究科客員教授)

大坪 明

(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授)

加我 宏之

(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)

吉羽 裕子

(株式会社吉羽裕子建築研究所代表)

中川 富雄

(大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長)

南 正晴

(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

## 総 評

審査委員長 狩野 忠正

今回の作品を総括すると、維持管理を考え、建築として安定した力が発揮されたと云える。逆に考えると、設計を始めようとする学生がこれで良いのだろうかと言う疑問が持たれるのである。管理運営し易いことに重きを置いていないだろうか。建設コストに気をとられすぎではないだろうかと言うことになる。審査側にとってはこう云う点は十分に理解した上での審査であることは間違いない。選考する上で一番重視することは選ばれた学生達の将来性であり、今の年代を考えた上で個性ある斬新性なのである。タイトルに書かれている、夢建築でなければならぬのだ。最後の決め手となるのは、若者らしい夢を語る設計でなければならないと考えるのである。若者の夢はどんなに高度なものだろうかと思うのである。その夢は永遠性を持たなければ、普遍的な秩序を持つものでなければと思うのである。今を背景に語られる夢でなければならないのである。この規模で、この内容で、世界に通用するものでありたいのである。その為には「刺激」となる要素が大切である。友人、家庭、学校、社会でどのようなコミュニケーションがなされているのだろうかを考えるのである。コミュニケーションあつての創造への「刺激」なのだ。「刺激」からくる戦慄を感じるほどの孤高を期待するのである。コミュニケーションから生まれる言葉、イメージは人々の心を動かすものである。建築の設計とは使う人間が主役である。奇をてらった空間は必要ではない。変わった形態は必要ではない。特に、CADで表現する時代となり、このような問題を感じるのである。簡単に、完成されることを危惧するのである。便利になった分、容易にCADと云う道具を使いこなして、はじめて有効なのである。じっくり、時間をかける必要があり、早くから課題に取組み、一度やりかえる時間の余裕があるのである。

ここで選ばれた作品に対する審査評をあげることにしたい。まず奨励賞となった3作品から始めることにしたい。

「やすらぎのある憩いの場」夢がある平面計画は良い。外構計画も良く使い易い。立面、窓の形状、配置は問題である。敷地の形状との関係は十分とは云えない。

「調和」桜並木との調和は評価したい。テラスに植えられたシンボルツリーとの対話が良い。円形とした内部空間、屋根の下の処理、外構デザインに問題がある。

「Canopied hall」大屋根によるキャノピーは内部と外部の中間領域をうまく処理している。使い勝手も良い、しかし集会場の形状、環境に配慮した二重天井は評価するが、まだまだ検討が不十分である。

次に、佳作となった3作品について、

「Brilliant」はプランのまとまりは良い、各室は無理なく納まっている。自然光の取り入れ方に好感を持った。軸線をふって、プランをまとめるのが気になる。さらに、設計をはじめるにあたっての大胆さが必要である。

「春夏秋冬」は中庭を囲む形状で平面計画をうまく処理している。屋根への形状も優れ、和風を感じる。囲まれた高層住宅からの眺めは良い。内部・外部の区画、中庭の広さ、外部通路からのアクセスなど問題がある。

「クリスマスツリーのある集会場」東西に開けたプランは外部とのつながりが良い。特に喫茶スペースが良い。放射円形にまとめたことは無理がある。放射状の部屋の形状にも問題がある。

次に、優秀作品賞となった3作品に移ることにしたい。

「庭と室内を一体化した施設」は魅力的である。中庭の配置が良い。

## 審査講評

中庭を抱き込むプランにしなから、道路、並木道、水路への配慮は不十分である。

「折り紙」はのびやかなプラン、敷地形状を大胆に使った点は評価したい。屋根の形状も面白い。動線、会議室、他各部屋形状に問題がある。

「結の棧」はエントランスに開放感があり、良好。まとまりのあるプランである。ガラス屋根の大きさ、雨水処理、屋根に昇る階段の位置は問題である。

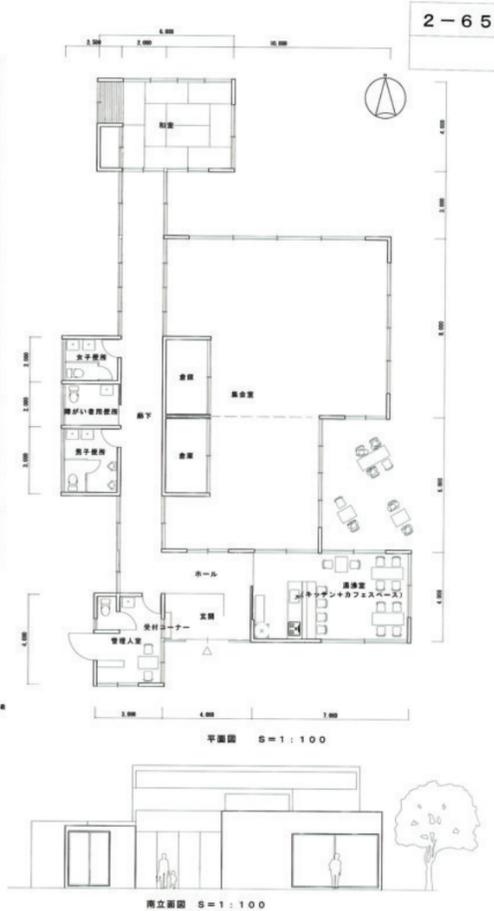
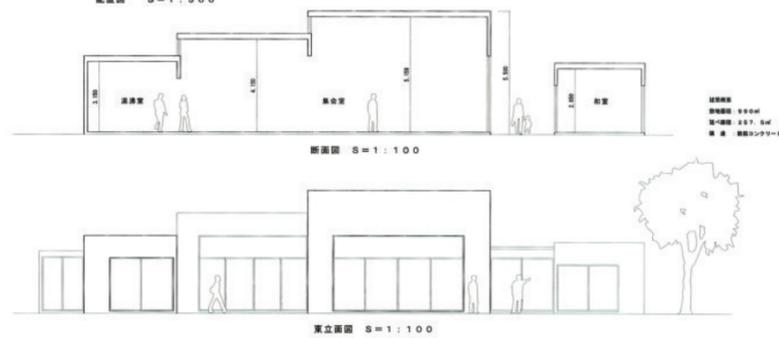
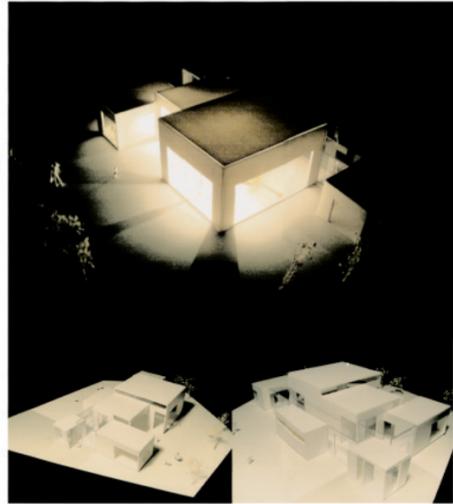
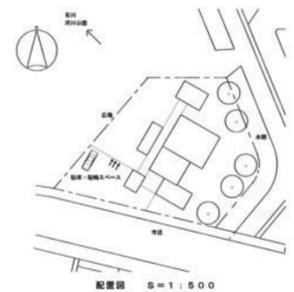
最優秀作品賞となった「come together ー多様性と固有性ー」は周辺環境と調和を計っていること、明快でのびやかなプラン、高低差のある天井高、光の取入れ方、玄関に入った感じが優れている。しかし問題点もある、一は廊下の長さであり、二は集会場、倉庫の配置、広さである。問題点はあるが、この計画があつた場所に建つのに最も適していると考えた。これから設計を行うのに相応しい案と考えた。わかりやすいプランであり、ピュアな設計姿勢を評価したのである。

最優秀  
作品賞

優秀作品賞

come together -多様性と固有性-

集まって住むこと。  
そこには様々な人がいる。  
そこは多様な個性、すなわち「多様性」であふれている。  
この団地の中心となる集会所は、その多様性を受け入れ、包み込む。  
出たり入ったり、高かったり低かったり。  
異なる広さと、異なる高さの場所が集まっている。  
部屋からはみ出して、外と中を一緒に使うことだってできる。  
街の象徴でもある石川～団地の中を象徴的に流れる水路までを緩やかに繋ぐ。  
ここに住む人、ここを訪れる人、それぞれが好きな場所を見つけ、好きなように使える。  
そこで新たな繋がりも生まれ、集まって暮らす豊かさが生まれる。



岡田 有為 大阪工業技術専門学校 2年

come together -多様性と固有性-

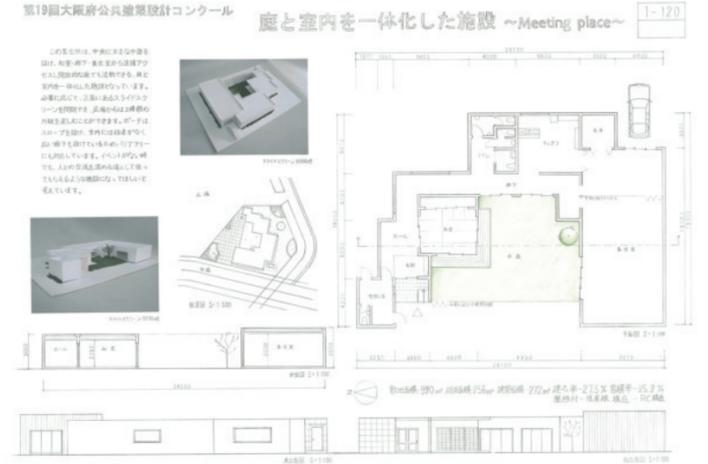
集まって住むこと。  
そこには様々な人がいる。  
そこは多様な個性、すなわち「多様性」であふれている。  
この団地の中心となる集会所は、その多様性を受け入れ、包み込む。  
出たり入ったり、高かったり低かったり。  
異なる広さと、異なる高さの場所が集まっている。  
部屋からはみ出して、外と中を一緒に使うことだってできる。  
街の象徴でもある石川～団地の中を象徴的に流れる水路までを緩やかに繋ぐ。  
ここに住む人、ここを訪れる人、それぞれが好きな場所を見つけ、好きなように使える。  
そこで新たな繋がりも生まれ、集まって暮らす豊かさが生まれる。

寺田 朋葉

大阪市立工芸高等学校 3年

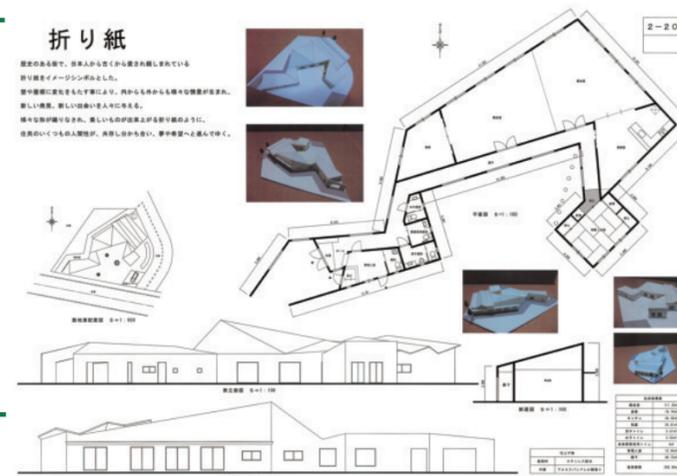
庭と室内を一体化した施設

この集会所は、中央に大きな中庭を設け、和室・廊下・集会室から直接アクセスし開放的な庭でも活動できる、庭と集会室を一体化した施設となっています。  
必要に応じて、正面にあるスライドスクリーンを開閉でき、広場からは2種類の外観を楽しむことができます。ポーチはスロープを設け、室内には段差がなく、広い廊下も設けているため、バリアフリーにも対応しています。イベントがない時でも、人との交流を深める場として使ってもらえるような施設になってほしいと考えています。



折り紙

歴史のある街で、日本人から古くから愛され親しまれている折り紙をイメージシンボルとした。  
壁や屋根に変化をもたす事により、内からも外からも様々な情景が生まれ、新しい発見、新しい出会いを人々に与える。様々な形が織りなされ、美しいものが出来上がる折り紙のように住民のいくつもの人間性が、共存し分かち合い、夢や希望へと進んでゆく。



橋本 佳明

大阪建設専門学校 2年

折り紙

歴史のある街で、日本人から古くから愛され親しまれている折り紙をイメージシンボルとした。  
壁や屋根に変化をもたす事により、内からも外からも様々な情景が生まれ、新しい発見、新しい出会いを人々に与える。様々な形が織りなされ、美しいものが出来上がる折り紙のように住民のいくつもの人間性が、共存し分かち合い、夢や希望へと進んでゆく。

濱口 理恵

大阪工業技術専門学校 2年

結の棧

千早川・石川に囲まれた悠遠な時間の流れる場所  
— そのなかにあつて人と人・人と地域・人と自然を結ぶ空間として集会所を計画した。  
市道から水路・河川公園へ結ぶ曲線を川に見立てて、その棧橋から新たな世界に旅立つ — 結の棧とした。  
そして川は森から生まれることから地域産業の林業ともつながりをもとめ、ウッドデッキやルーバーなど間伐材を多く利用している。その他プランターによる壁面緑化・既存樹木に加え、新たな樹木は住人の手で毎年植樹祭として行う等、現在の住人も新たな住人も長期にわたって交流を深められる種を植えたい。  
キッチンを利用した住人シェフのランチ交流・外のかまどベンチによるバーベキュー大会等のイベントや子育て支援、地域交流を行いやすいレイアウトとし、既存の活動だけでなく新たな活動を呼び起こす場所でありたい。  
テラスや縁側など、集会所の閉鎖時も人々が集える場所を多く配し、より自由に、世代をこえて結ばれるコミュニティの核となる空間を提案したい。





佳作



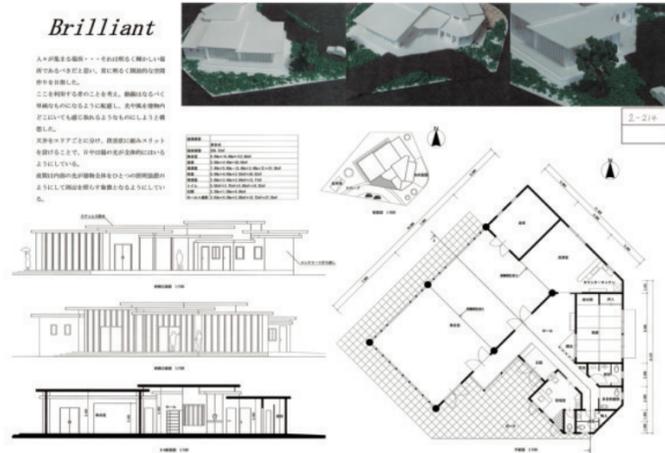
奨励賞

### 伊豆田 隼平

大阪建設専門学校 2年

#### Brilliant

人が集まる場所・・・それは明るく輝かしい場所であるべきだ  
 と思い、常に明るく開放的な空間作りを目指した。  
 ここを利用する方のことを考え、動線はなるべく単純なものに  
 なるように配慮し、光や風を建物内どこにいても感じ取れるよ  
 うなものにしようと構想した。  
 天井をエリアごとに分け、段差状に組みスリットを設けることで、  
 日中は陽の光が全体的にはいるようにしている。  
 夜間は内部の光が建物全体をひとつの照明装置のようにして  
 周辺を照らす象徴となるようにしている。



### 春夏秋冬



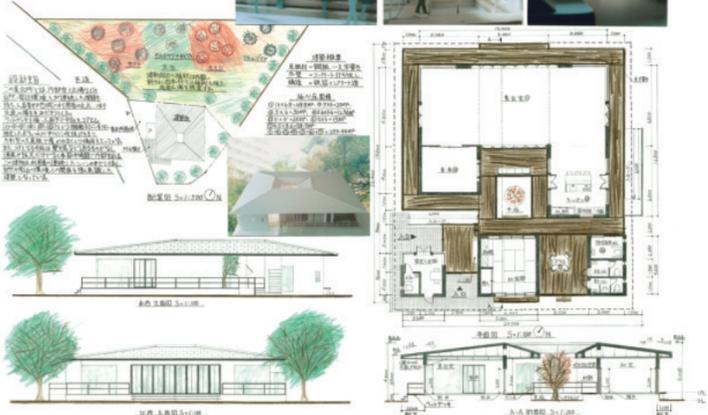
2-12

### 庄司 竜太

日本理工情報専門学校 1年

#### 春夏秋冬

この集会所では、内部空間と広場などの自然・周辺環境とが  
 連続した関係を持ち、入居者や地域の利用者の交点、つまり  
 交流の場を生みだそうとした。  
 ウッドデッキを張った廊下で中庭をコアとし、①+②+③、  
 ④、⑤、⑥という機能別4つに独立したボリュームが  
 中心に吹抜けをもつ、方形型の大屋根で覆われるという構成  
 をとっている。  
 また、コアとなる中庭は、壁や扉など遮るものがなく、通風や  
 採光だけでなく季節や時間で内部を彩る。  
 この建物は、利用者の連続したシーンの中で、とりまく自然や  
 周辺の環境との関係を強く意識した建築となっている。

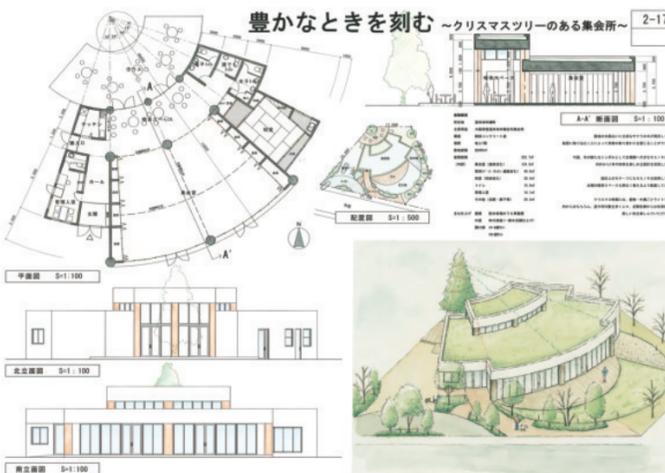


### 山口 純子

大阪府立夕陽丘高等職業技術専門学校 1年

#### クリスマスツリーのある集会所

敷地の水路沿いに立派な桜の木が現存しており、風景に取り込む  
 ことによって季節の移り変わりを感じることができます。  
 今回、冬の新たなシンボルとして広場側へ大きなモミノキを配し、  
 内外から一年中四季を楽しめる設計を目指しました。  
 設計上のモチーフにもモミノキを採用しており、北側の喫茶スペ  
 ースも明るく使えるよう配慮しています。  
 クリスマス時期には、建物・外構ごとライトアップ。  
 内からはもちろん、道や河川敷を歩く人々、近隣住棟からは各家庭  
 より、美しい光を楽しんでいただけます。

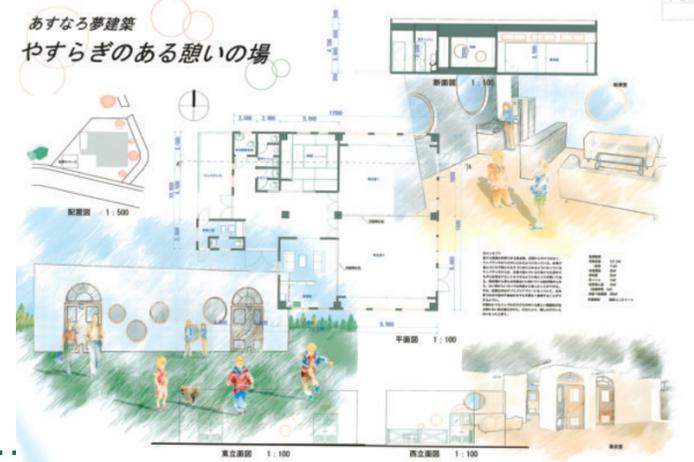


### 青野 琴子

大阪市立都島工業高等学校 2年

#### やすらぎのある憩いの場

誰でも気軽に利用できる集会場。玄関からだけではなく、  
 ウッドデッキからも中に入れるようになっている。広場で遊  
 んでいた子どもたちもすぐに中に入れるようになっている。  
 ウッドデッキからは、広場で遊んでいる子どもたちを見守り  
 ながらお茶をすることもできるように机とイスが置いてある。  
 集会場から春には水路沿いに咲いている桜が眺められる。  
 丸い窓から、いろいろな角度から楽しむことができる。  
 中は、和室以外はすべてバリアフリーになっていて、お年  
 寄りの方や足の不自由な方でも不便なく使用することができ  
 るように。  
 外観はとてもシンプルだけどその中にも優しい雰囲気が出  
 るように丸い窓を備え付けた。それにより、親しみやすいも  
 のになったと思う。

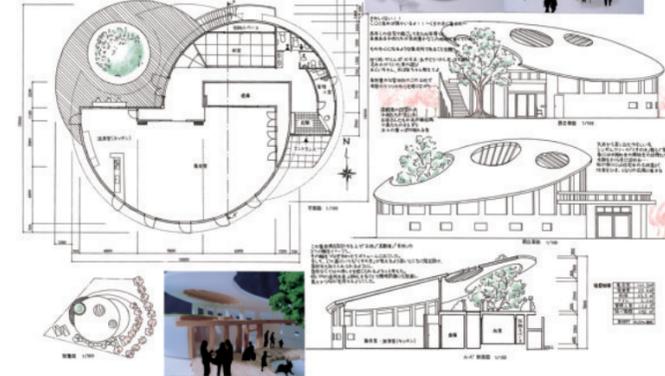


### 久保 亜弓

大阪市立都島工業高等学校 2年

#### 調和

さみしくない！！  
 ここに来れば誰かいるよ！！～くすのきに集まれ～  
 長年この住宅で過ごしてきたお年寄り、未来ある子供  
 たちが自然豊かなこの地域で育っていく。  
 その中心になるような集会所であることを願う。  
 折り紙・竹とんぼ・お手玉・あやとり・けん玉・コマ回し・・・  
 忘れかけていた昔の遊び  
 おじいちゃん、おばあちゃん教えてよ  
 自然豊かな富田林のこの土地で季節のうつろいを感じながら・・・



### 長岡 輝暁

大阪建設専門学校 1年

#### Canopied hall

いかにして住民と建物との親和度を高めるかを考えた。  
 計画地内に広場への近道があれば、住民はそこを  
 広場へ向かうだろう。この近道を挟むように建物と壁をつ  
 くり、キャノピーを設ける。近道は一見近寄りたくなるが、  
 それは建物との「距離」が小さくなった為で、従って時を  
 経るごとに住民と建物との親和度はいっそう大きくなる。  
 住民と建物の距離が近くなるのなら、ある意味でこの2  
 項が同類になるようなカタチを表現してみようと思った。  
 キャノピーをぐんと大きくし、建物をすっぽりと覆うようにした。  
 こうすることで、2項は「一つ屋根の下にある」という意味で  
 同類となる。

一方で、建物をも覆う大きなキャノピーは、無表情のままだと上階の住民に違和感を感じさせてしまうように思う。  
 そこで、キャノピーに四角い穴をぽっかりとあけることにした。この穴が、ある種の愛嬌を担ってくれることを期待して。  
 また、穴から入る日射は一部の空気を暖め、気流を生み出し、夏場に快適な空気環境をつくるだろう。

